

【一覧表記載例・注意事項】物損事案・別紙1

令和〇〇年(ワ)第〇〇〇〇号
 原告 〇〇, 〇〇保険株式会社
 被告 〇〇, 〇〇会社

最終更新日: RO.O.O
 最終更新者: OOOO

事案の概要

(1) 事故の発生

項目	原告側の主張		証拠	被告側の主張
日時	RO.O.O	午前〇:〇〇頃	甲●: 事故証明	認める。
場所	〇県〇市〇町〇丁目〇番〇号		同上	認める。
関係車両等	原告車	〇〇自動車 登録番号: OOOO 運転者: 〇〇 所有者: 〇〇	同上, 甲●: 登録事項証明	認める。
	被告車	〇〇自動車 登録番号: OOOO 運転者: 〇〇 所有者: 〇〇	甲●	認める。
態様	...		甲●: 物件事故報告書	...は否認する。

(2) 責任原因

被告〇〇	民法709条(〇〇義務違反, 前方不注意)		...は争う。
被告会社	民法715条1項(被告車の運転者の使用者, 事業の執行について上記事故発生)		認める。

(3) 原告車

車種	〇〇自動車	甲●: 登録事項証明	認める。
車名等	〇〇	同上	認める。
型式等	〇〇-〇〇〇〇	同上	認める。
初度登録	RO.O (事故時 約〇〇年〇〇か月 経過)	同上	認める。
走行距離km	甲●	認める。
その他			

【注意事項】

はじめに	一覧性を損なうことのないよう主張の中核部分を端的に記載し, 主張の詳細は, 訴状等の本文に記載してください。項目ごとに主張の根拠となる書証番号と簡単な標目を必ず記載してください。本記載例はあくまで一例です。事案に応じて柔軟に記載してください。
赤枠	年月日は, 「R3.1.1」の形式で入力してください。
灰背景	赤枠の年月日が正しい形式で入力されていると, 自動で年齢等が表示されます。

事件番号	答弁書以降, 記載してください。
当事者名	原告名, 被告名を記載してください。
最終更新日	最終の編集時の年月日が自動で表示されます。
最終更新者	編集した際には, 必ず変更してください。

日時	年月日は, 「R3.1.1」の形式で入力してください。時間は, 12時間表記で午前/午後を区別し, 「午前/午後10:00頃」等の形式で入力してください。
場所	場所の地番等を記載してください。客観的な現場の状況を付記することも考えられます。例: 「信号機の設置されていない丁字路交差点」
関係車両等	「所有者」は, 請求原因事実でなければ記載する必要はありません。また, 使用者として車両の損害を賠償請求する場合には, 「所有者」を「使用者」に変更してください。その場合, 所有者でないのに賠償請求できる法的根拠を訴状本文に具体的に記載してください。
態様	交通事故が特定できる程度に記載し, 当事者間で争いなくなるように記載の方法を工夫してください。(争われることが予想される場合, 主張の詳細は, 訴状本文に記載してください。)

責任原因	被告ごとに, 責任原因を法条と共に記載してください。被告に過失があると主張する場合, その注意義務の内容を端的に記載してください。また, 道路交通法上の義務に違反したと主張する場合, その条項も併せて記載してください。責任原因が民法715条等である場合, その要件事実を端的に記載してください。
------	---

原告車	損害額の主張に当たり, 必要に応じて記載してください。なお, 「車名等」には, 登録事項等証明書に記載されている車名(メーカー名)だけでなく, ブランド名・通称名等を付記することも考えられます。「初度登録」は, 年月日まで判明する場合は, そのまま入力してください。この場合, 経過年月が自動計算され, 「〇〇年〇〇か月」と表示されます。年月までしか判明しない場合に, 「RO.O」と入力すると, その月の15日に登録された場合の経過年月が自動計算され, 「約〇〇年〇〇か月」と表示されます。
-----	--

【一覧表記載例・注意事項】物損事案・別紙2

令和〇〇年(ワ)第〇〇〇〇号
 原告 〇〇, 〇〇保険株式会社
 被告 〇〇, 〇〇会社

最終更新日:RO.O.O
 最終更新者:〇〇〇〇

損害額一覧表

(原告〇〇の物的損害)

項目	原告側主張額	理由等	被告側主張額	理由等
修理費	¥・.....	甲●	¥・.....	否認する。
レッカー代	¥・.....	甲●	¥・.....	認める。
評価損	¥・.....	...		
代車料	¥・.....	日額.....円×...日 =.....円(甲●)		代車日額:多くとも.....円 修理期間:長くとも...日
小計	¥・.....			
過失相殺	0%% ...	
過失相殺後	¥・.....			
損害の填補				
車両保険金	¥-.....	甲●		不知。
控除後	¥・.....			
弁護士費用	¥・.....			争う。
合計	¥・.....			

(原告保険会社の求償金)

項目	原告側主張額	理由等	被告側主張額	理由等
車両保険金	¥・.....	甲●		争う。
合計	¥・.....			

【注意事項】

はじめに	一覧性を損なうことのないよう主張の中核部分を端的に記載し、主張の詳細は、訴状等の本文に記載してください。 主張の根拠となる書証番号を必ず記載してください。 本記載例はあくまで一例です。事案に応じて柔軟に記載してください。
灰背景	合計額等が自動計算されます。

事件番号	別紙1で入力していれば、その内容が自動で転記されます。
当事者名	
最終更新日	最終の編集時の年月日が自動で表示されます。
最終更新者	編集した際には、必ず変更してください。

項目	必要に応じて、損害項目を追加／削除してください。
主張額	金額を整数で入力してください。 数式を使用することもできますが、その際には、合計にずれが生じることを防ぐため、必ず整数化する処理を施してください。例えば、「=int(〇*〇*〇)」と入力すると、小数点以下は切り捨てになります。
理由等	内訳や計算式を記載するほか、基礎となる数値・事実ごとに書証番号を必ず記載してください。 この一覧表には、一覧性を損なうことのないよう主張の中核部分を端的に記載し、主張の詳細は、準備書面等の本文に記載してください。また、必要に応じて、主張の詳細が記載してある書面を付記してください(「詳細は準備書面(2)P3」等)。
小計	以上の小計が自動計算されます(「SUM」を使用)。 項目の追加／削除をした場合には、対象範囲を必ず確認してください。
過失相殺	過失相殺すべき割合(原告側の過失割合)につき、「%」を単位として入力してください(「50」と入力すると「50%」,「0.5」と入力すると「0.5%」となるので注意してください)。 過失相殺後の額は自動計算されます(過失相殺として控除すべき額の小数点以下を切り捨て。「INT」を使用)。
損害の填補	項目ごとに填補された額をマイナスで入力してください。 元本充当以外の充当方法を用いる場合には、その方法と計算式を明示し、元本から控除される額をマイナスで入力してください。 控除後の額は自動計算されます(「SUM」を使用)。 項目の追加／削除をした場合には、対象範囲を必ず確認してください。
合計	損害の填補後の額に弁護士費用を加えた額が自動計算されます(「SUM」を使用)。

求償金請求	保険代位による求償金請求等がある場合に使用してください(保険会社からの求償金請求等がない場合には不要です)。 当初は、上記で入力した車両保険金の額が表示されています。これと異なる場合には、上書きしてください。
-------	---